



Question

空になったインクボトルや
使用済み製品が回収された後は、
どうなっているの？



| 特集2 |

使用済み製品の 再資源化を追求



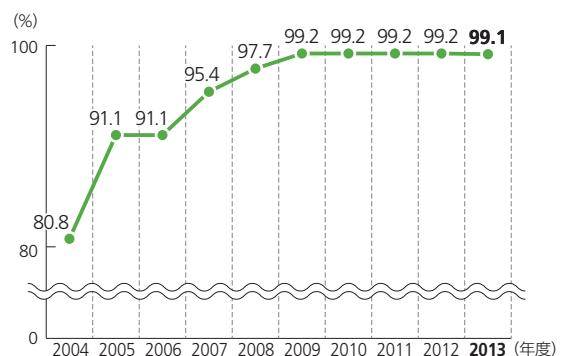
Answer

ごみとして廃棄する量をできるだけ
少なくするために、さまざまな形で
リユースやリサイクルを進めています。

再資源化率を限りなく 100% に近づけるために

理想科学は、2004年より「再資源化率」の把握を開始しました。回収した使用済み製品(インクボトル、インクカートリッジ、印刷機)の徹底した分別と資源の有効活用を追求し続け、2009年以降は再資源化率99%以上を継続しています。

■ 再資源化率の推移



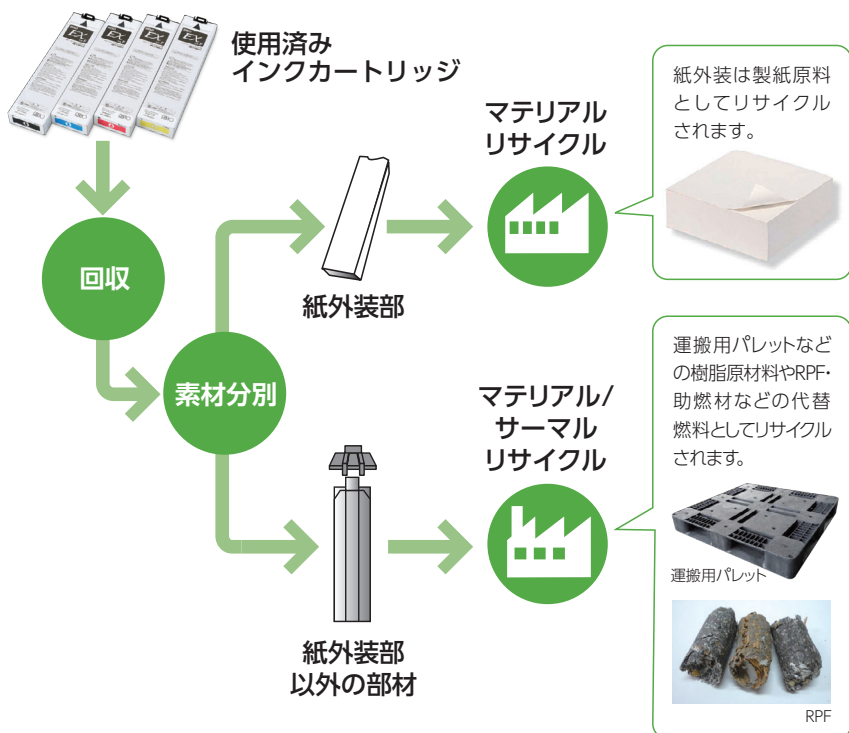
使用後のインクボトル・カートリッジは、 回収した後、原材料や燃料に姿を変えて、循環しています。

日本国内で使用済みとなったインクボトル・インクカートリッジを市場から回収し、
マテリアル(原材料)リサイクルやサーマル(燃料)リサイクルにより資源の有効活用を図っています。

インクボトルのリサイクルフロー



インクカートリッジのリサイクルフロー



KEYWORD 「RPF」とは?

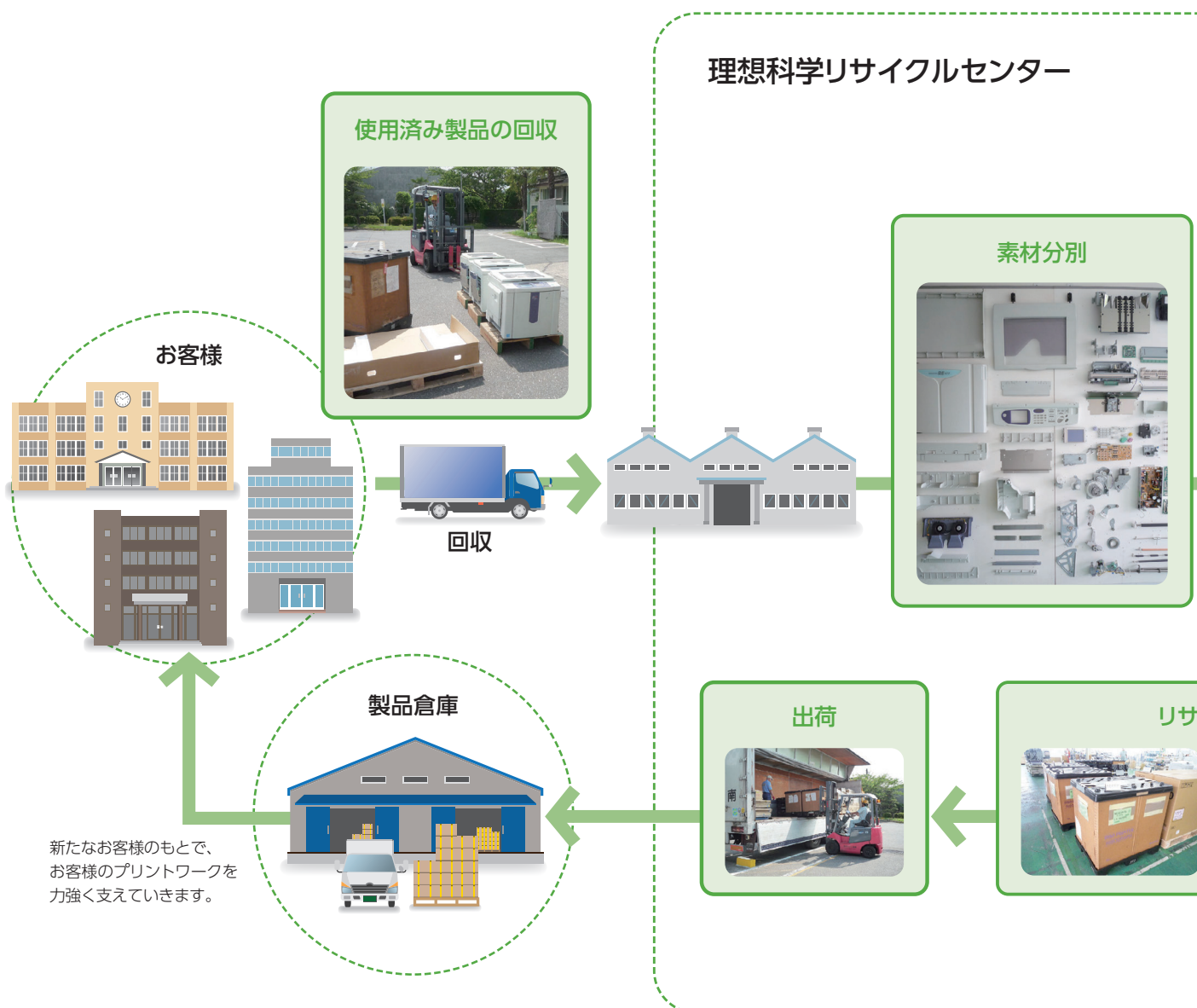
化石燃料に代わる「エコ」なエネルギー源です。

RPF (Refuse Paper & Plastic Fuel) とは、マテリアルリサイクルが困難な廃プラスチックと紙・木材などで作られた高品位な固形燃料で、化石燃料に代わるエネルギー源です。製紙会社や製鉄会社などで幅広く利用されており、化石燃料の代替として利用することでCO₂の削減に貢献します。

使用済みの「リソグラフ」は、貴重な資源。 部品や燃料などさまざまな形で 再使用・再資源化されています。

使用済みとなり回収された「リソグラフ」は、理想科学の品質基準に合格した部品を再使用し、リサイクル機として再び製品に生まれ変わります。
新品機同様の出荷基準をクリアしたものだけがお客様のもとに届けられます。
リユースできない部品は原材料や燃料へと再資源化されています。

「リソグラフ」(本体)のリサイクルフロー





担当者の声 製品からの廃棄物ゼロをめざして

理想科学のリサイクル活動は、使用済みインクボトルの回収を開始した22年前にさかのぼります。以来、消耗品のリサイクルフローを確立するとともに、1998年には、リサイクルセンターを設立し、印刷機本体のリサイクルを開始しました。印刷機の構成部品は多数で、リユース・再資源化の分別は非常に緻密な工程になりますが、この取り組みを地道に追求してきた結果が、再資源化率99%という誇らしい数字に結びついています。今後も製品リサイクルの取り組みを一層進化させ循環型社会形成に向け貢献していきたいと考えています。



環境活動推進部 環境活動推進一課 海部 龍一
 リサイクルセンター リサイクル製造課 松尾 一郎
 リサイクルセンター リサイクル企画課 湯原 耕一

回収された使用済み製品は、リサイクルセンターでリサイクル機やリユースパーツとして生まれ変わる再使用部品と再使用できない部品に峻別されます。

廃棄



廃棄されるのは、全体重量の1%未満です。

マテリアル/サーマルリサイクル



鉄、銅、アルミ、ステンレス、樹脂、ガラス、RPFなど

燃料メーカー

再使用できない部品は、できるだけ廃棄はせず、利用しやすいように素材ごとに分別処理を行い外部業者に委託し、原料もしくは燃料として再資源化します。

再使用部品



再使用部品は、清掃・洗浄され、厳正な品質検査を経て基準に合格した部品は、新たな製品やメンテナンス用リユースパーツとして生まれ変わります。当社では、再使用部品の拡大に努めています。

新品部品

印刷製品の組み立て工程



当社の品質基準に合格した再使用部品と新品に交換された消耗部品で組み上がった製品は、厳密な品質チェックを受けた後、リサイクル製品として出荷されます。